

## 滋賀県がん診療連携協議会・第11回地域連携部会議事概要

日 時 平成24年1月26日(木)午後5時半～午後8時40分  
場 所 大津赤十字病院 外来棟6階会議室  
出席者 各部会員

### 1. 「滋賀県5大がん地域連携パス作成作業部会」報告

滋賀県5大がん地域連携パス運用実績について

・平成24年1月26日現在、滋賀県5大がん地域連携パス運用件数は154件であり、そのうち75件が算定有での運用である。拠点病院別では、大津赤十字病院が23件、滋賀県立成人病センターが37件、市立長浜病院が29件、彦根市立病院が4件、公立甲賀病院が13件、滋賀医科大学附属病院が20件であり、支援病院別では大津市民病院1件、草津総合病院1件、済生会滋賀県病院1件、長浜赤十字病院22件、近江八幡市立総合医療センター0件で各医療圏から報告を受けている。

滋賀県進行期胃がん・大腸がん地域連携パスについて

・これまでの経過としては、5大がん地域連携パス作業部会で幾度となく議論を重ねてきたが、承認までには至らなかった。前回の5大がん地域連携パス作成作業部会では特別に患者会3名と診療所の先生方にも5名参加いただき、熱い議論が交わされた。結論から言えば、早く進行期がんを運用してほしいとの意見が多数であった。本会議において滋賀県進行期胃がん・大腸がん地域連携パスの最終原案を承認いただきたい。

(進行期胃がん地域連携パスに関して公立甲賀病院の瀬戸山博外科部長より報告された)

- ・「私のカルテ」は化学療法ありと化学療法なしを作成した。早期がんと同様の形式で作成している。「私のカルテ」を利用される患者様に向けた文章の内容については、化学療法有りのケースにおいては、退院されてから一年間はがん再発の予防を目的とした化学療法を行う旨の文章を掲載した。
- ・化学療法開始にあたり6週間の投与計画策定期間を設け、計画策定病院主導による投与スケジュールを決定した後に医療連携を開始する。
- ・計画策定病院担当医は、患者認容性・有害事象発生の程度・頻度などを総合的に判断し、休薬期間の延長、S-1減量あるいは投与スケジュールの変更を決定する。
- ・投与スケジュールは「4週間内服後2週間休薬」に限られて運用することなく、計画策定病医院医師の主導により「2週間内服後1週間休薬」あるいはその他の内服方法への変更など、柔軟な対応を行うものとする。
- ・患者から副作用症状の訴えがある場合には、連携診療所においても可能な検査(腹部超音波・胸部X線撮影・血液検査など)を随時施行するか、または計画策定病院へ連絡することとする。

・S-1 投与計画の変更を行う場合、「私の受診カルテ」を用いて医療連携を維持するよう努めていく。これは、滋賀県がん患者団体連絡協議会からの要望を組み込んでいる。(化学療法期間の「私の受診カルテ」は、すべての投与スケジュールに対応可能な構成となっている)

以上について、地域連携部会員の承認を得たため、がん診療連携協議会のHPへアップロードを行う。

(進行期大腸がん地域連携パスに関して大津赤十字病院の吉川明外科副部長より報告された)

・進行期大腸がん地域連携パスは三本立てで作成した。補助化学療法用、ゼロダ服用用、UFT/ユーゼル服用用の「私のカルテ」である。

・これまでの会議で意見がまとまらず問題となった、連携先医療機関(診療所)の受診のタイミングについて、前回の5大がん地域連携パス作成作業部会で議論を重ねた結果、診療所の先生からご意見をいただきパススケジュールを完成させることが出来た。その結果、ゼロダの場合であれば、1コース目と8コース目の休薬期間と3コース目～7コース目のゼロダ内服期間に連携先医療機関(診療所)を受診していただくこととした。

・「私のカルテ」については早期がんと同様の形式で作成した。内容としては、パススケジュールに基づき、私の受診カルテを作成し日々お薬の服用状況・副作用の症状等が記入できるようにした。また、外来受診日に合わせて日めくりで受診カルテがあった方が体調管理しやすく記録として残せて良いという患者会の意見を組み込み私の受診カルテを作成した。

以上について、地域連携部会員の承認を得たため、がん診療連携協議会のHPへアップロードを行う。

## 2. 「5大がん地域連携パス」登録事務手続きについて

大阪府および兵庫県がん診療連携協議会からの要請に対する回答結果

・大阪府および兵庫県がん診療連携協議会から、がん地域連携届出手続きの簡略化に向けた取り組みの賛同要請があった事を前回の地域連携部会で報告した。その提案に対し部会員に回答形式で意見を集った結果、市立長浜病院および彦根市立病院から賛同したいと協議会へ回答をいただいた。滋賀県がん診療連携協議会としては2012年1月16日付で大阪府および兵庫県がん診療連携協議会に宛て、賛同書を提出した。近畿厚生局側がどのように受け止めるか予測不能であるが、来年度の診療報酬改定に伴い、がん治療連計画策定料に関しては現行の「退院時のみ算定が可能」が緩和され退院後も算定が可能となる方向に改善される動きがある。

## 3. 県からの問題提起

・これまで滋賀県として5大がん地域連携パスの構築・整備を目標に取り組んできた。

早期5大がん地域連携パス、進行期胃がん大腸がん地域連携パスが完成した今、5大がんを

クリアした他のパスにも取り組んでいかなければならない。また、その先にある在宅の患者様に  
向け、地域医療連携室の関わり方について検討し、今後、県としても取り組んでいきたい。

#### 4. その他

第6回 滋賀県5大がん地域連携クリニカルパス研修会について

- ・2012年3月1日(木)18時から第6回 滋賀県5大がん地域連携クリニカルパス研修会を湖南医療圏、滋賀県立成人病センターが担当で実施する予定である。場所は草津総合病院に於いて行う。
- ・詳細な内容については、まだ具体的には決定していないが、講演を公立甲賀病院の瀬戸山先生に依頼しており、当日は湖南医療圏がんネットワーク研究会と併せて開催予定である。情報交換・共有を目的とし、開業医の先生方にも多数参加いただけるように設定している。

#### 滋賀県薬剤師会より報告事項

- ・前回の第19回5大がん地域連携パス作成作業部会、第10回地域連携部会で指摘があった応需不対応薬局に対し、県薬剤師会へ文書にて報告し、県薬剤師からの改善指導を依頼中である。万一、問題があれば個別に対応するため、前向きにご指摘いただきたい。
- ・開業医がTS-1を購入し、在庫を持つことのリスクは大きい。そのため問題転嫁ではないが、地域の薬局に院外処方に対応を依頼する。応需薬局は経口抗がん剤を仕入れ在庫を持たないのか。また、経口抗がん剤を手に入れる何らかの方法はないのか。
- ・薬局と薬局間では購入が可能である。また、病院と卸し業者間では購入が可能である。
- ・県薬剤師会ではIT化を目指し取り組んでる。在庫管理が分かるようなシステム作りを検討している。課題はたくさんあるが徐々に進めていきたい。

以上

平成24年度

滋賀県がん診療連携協議会  
第10回 地域連携部会 出席者名簿

2012/1/26

	施設・団体名	所属・職名	氏名	出欠
部会長	大津赤十字病院	第一内科部長	大野 辰治	出席
副部会長	滋賀医科大学医学部附属病院	腫瘍センター長	醍醐 弥太郎	出席
副部会長	滋賀県立成人病センター	外科主任部長	財間 正純	出席
部会員	滋賀医科大学医学部附属病院	医療サービス課 係員	野本 滋	出席
"	大津赤十字病院	地域医療連携課課長	水野 敏子	出席
"	滋賀県立成人病センター	地域医療サービス室 副主幹	藤田 和信	出席
部会員	公立甲賀病院	外科部長	瀬戸山 博	出席
部会員	彦根市立病院	呼吸器科部長	林 栄一	出席
部会員	市立長浜病院	診療局理事（外科部長）	神田 雄史	出席
部会員	社団法人滋賀県医師会	理事	越智 眞一	欠席
"	滋賀県保健所長会	東近江保健所長	瀬戸 昌子	欠席
"	社団法人滋賀県薬剤師会	介護福祉部委員	富田 国男	出席
部会員	社団法人滋賀県看護協会		中村 恭子	欠席
部会員	滋賀県健康福祉部健康推進課	副主幹	加賀爪 雅江	出席
部会員	滋賀県がん患者団体連絡協議会	副会長	藤内 隆行	欠席
(代理)	滋賀県がん患者団体連絡協議会		大木 様	出席
部会員	滋賀県がん患者団体連絡協議会	運営委員	須藤 恵子	出席
オ'ザ'-ハ'-	滋賀県栄養士会	会長	小澤 恵子	欠席
部会員	滋賀県立成人病センター	経営企画室 主任主事	谷本 圭	欠席
(代理)	滋賀県立成人病センター	地域医療サービス室参事	田中 繁芳	出席
事務局	大津赤十字病院	主事	津村 あさみ	出席

合計 15 名